



富士市防災アプリの使い方 ①



身近な場所の災害リスクを知ろう



富士市防災アプリでは**2つの方法**で災害リスクを調べることができるよ。
まずは**自宅**や**職場**など、身近な場所の災害リスクを確認しよう！

最初にアプリをダウンロード！

Androidはこちら



iPhoneはこちら



方法1 調べたい地点から検索する



「防災マップ」を選択



地図上の調べたい場所を**長押し**する



その地点の災害リスクが**一覧**で表示されます

Point !

以下の手順でも調べることができます

「防災マップ」

ハザードマップ 地点検索 避難施設

住所を入力して検索する

方法2 災害の種類から調べる



をタップ



をタップ



調べたい災害の をタップし、 をタップ



選択したハザードマップが表示されます

裏面へ続く



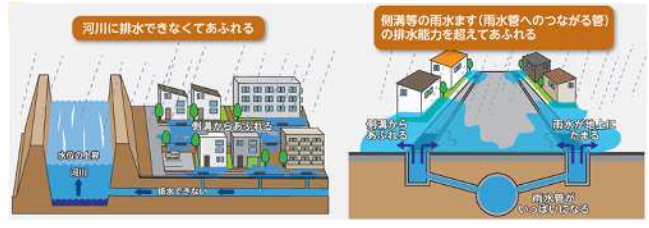
洪水

河川洪水は、氾濫が起こってからでは避難が間に合いません。川の水位の上昇に合わせて市から**避難情報**を発令するので、早めに安全な場所へ避難してください。
※自宅の浸水リスクを参考に**避難先**を決めておきましょう。



内水

大雨の際、河川の水位が上昇することで雨水を排水できず、側溝や水路等から水が溢れてしまうことを**内水氾濫**と言います。道路が冠水して通れなくなるおそれもあるので、普段からよく通る道路の浸水想定も確認しておきましょう。



津波

津波避難の原則は、“**危険なエリア（津波避難対象区域）の外に出ること**”です。一方、時間の猶予がなく避難が間に合わない場合は、近くの高い建物へ避難するようにしましょう。

富士市防災アプリで**ハザードマップ**や**津波避難施設**の場所を確認することができます。



	洪水	1.0m～3.0m未満 (富士川)
	内水	0.3m～0.5m未満
	津波	0.01m～0.3m未満
	地震	6弱
	土砂災害	あり
	溶岩流	5次避難エリア
	融雪型火山泥流	避難対象エリア

地震

富士市で想定されている南海トラフ地震による最大震度は、**6弱**または**6強**です。それぞれ以下のような特徴があります。

6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し倒れる物もある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強

- はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れる物が多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多い。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

富士山噴火

火山の噴火によって高温のマグマが流れてくる現象を**溶岩流**といます。避難対象エリアと想定される影響は表のとおりです。第1～3次避難対象エリアは**噴火前避難**、第4～6次避難対象エリアは**噴火後避難**となりますので、覚えておきましょう。

	避難対象エリア	想定される影響
噴火前避難	第1次避難対象エリア	想定火口範囲
	第2次避難対象エリア	溶岩流が1時間以内に到達
	第3次避難対象エリア	溶岩流が3時間以内に到達
噴火後避難	第4次避難対象エリア	溶岩流が3～4時間に到達
	第5次避難対象エリア	溶岩流が24時間～7日に到達
	第6次避難対象エリア	溶岩流が7日～最終的に到達

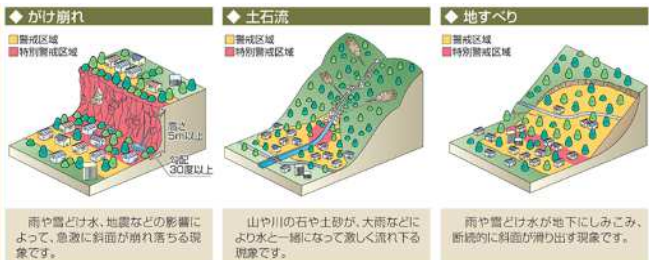
また、積雪期に噴火が起こると、雪解け水が洪水のように高速で流下する現象（**融雪型火山泥流**）が発生すると想定されています。**事前避難対象エリア**の方は噴火前避難となります。

詳しくは「富士市富士山火山防災マップ」をご覧ください

土砂災害

土砂災害とは、がけ崩れ、土石流、地すべりのことをいい、ほとんどは、雨や地震によって突然発生します。

災害リスクがある場所にお住まいの方は、気象情報や市からの避難情報に注意して、早めに**危険エリアの外へ**避難しましょう。



雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象です。 山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象です。 雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象です。